

お父さんと息子さんが写真学科の卒業。
家族構成はお母さんと長女を合わせて4人。
ごくごく普通の家庭ですがみんな明るいので
曇りの日も雨の日も家族の誰かが太陽のように
笑顔を見せていつも自然と笑いが渦巻きます。(笑)

岡村 直樹 × 正代 × 篤志 × 幸代

© 岡村篤志

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.21

UP! SPECIAL
HAPPY is
FAMILY

数年後は親子でカッコいい写真館にします。



父と母が築いてくれた素敵な家庭のような雰囲気を持ったお店を作りたいですね。父の「今を力いっぱい頑張れ」この暖かいサポートの中にある「感謝」と「継続力」を忘れずに努力します。「お父さん、お母さんこれからも宜しくお願いします。」

今春、写専を卒業した篤志さん(20)のお父さん(直樹・50)も写専の卒業生。お父さんは当時のフォトデザイン学科でしたが篤志さんは営業写真コース。現在は奈良で営業写真館を営んでいます。篤志さんは京都の写真館に数年間修行に入ります。

篤志さんに聞きました「写専時代の一番の思い出は？」「校長室に毎日のように行っては写真の話をたくさんさせてもらった事です。知らなかつた写真の世界を校長先生が教えて下さってほんとうに楽しかったです。校長室はボクの図書館でした。ありがとうございます。勉強になりました。あっ、それと校長先生にはよく食事誘っていただきました。食べた事のない分厚いお肉は最高でした。今度はボクが」(照れながらも笑)「そういえばニコニコ笑いながらよく来た学生でした。直樹さんの趣味は？」「わたしも息子もアウトドア派なんです。キャンプにもよく出かけます。ロードバイクも持ってますよ」(笑)「遠くまで走りますよ」息子さんの方と言

えば「ボクのアウトドアはもっぱら自転車か自力で走る事です(爆笑) 走っているといろんな方と出逢います。『アッお散歩ですか?』とか知らない人にも声をかけるのが楽しいですよ。コミュニケーションって大切じゃないですか」

「お前は愛想がいいからな」(笑)「お父さんは真面目できつちりとした性格だそうですね。それにプラスして息子は口が達者ときたら商売繁盛間違いありませんね。」

さあ、いよいよ息子さんが旅立ちの季節になりました。「限界を自ら決めずに、何事も全力で取り組んで下さい。どうしても、どんなに励んでもダメなときには、逃げるのではなく視点を換えるだけでまた別の取り組み方も見えてくるでしょう」いいメッセージですね。息子を信じているから心からでてる暖かい言葉ですね。そばで聞いているお母さん(正代・48)妹さんの(幸代・16)優しい笑顔が浮かびます。奈良から大阪へ、そして京都まで。篤志さんの人生の旅は続く。(は)